混乱した高校生徒総会

―低調な活動内容と非協力的な生徒―

―昭和三十六年度後期生徒会―

洛星高等学校昭和三十六年度後期生徒会の決算報告のための生徒総会が、四月三十日午後三時二十五分から四時五十分まで、一時間二十五分にわたって、本校講堂で現高二・高三の生徒の参加のもとに開かれた。

決算報告書を全員に配布したあと、その内容の説明が行なわれた。

質問に移って、まず一月二十八日と二月十八日に、中学・高校両生徒会主催のスキーが行なわれたが、その時、生徒会側が赤字を防ぐために、バス一台当りの参加者を少なく見積り、一人当り一回の参加者から四百五十円、二回とも参加した者からは八百円徴収したところ、参加者が予想外に多く、一万七千余円の余剰金が出た件について、高二の一生徒から「生徒会は利益追求を目的としていないのであるから、この一万七千余円を参加者に返却すべきではないか。」との反論が出された。

これに対して生徒会側は、「風邪で欠席した人には返却する必要はない。」と答えたので議事の方向が狂い、議長がいなかった事もこれに拍車をかけ、指名を受けた者が、意見を発表できず、マイクは少数の理事者と、高二の一生徒に占領され、二百余りの一般生徒会員は議事の進行から取りのこされた形になり、この頃から高三の会員の中で、退場する者が出て来た。結局、この動議は一方的に打ち切られ、次の質問に移った。

次に「収入の〝その他〟と支出の〝その他〟の項は、帳面を合わせるために、いい加減な数字を掲げているのではないか。」という質問をされたが、それに対して十分な解答が得られないまま、総会は終りに近ずいたが、終了間際になって、高三の一生徒から「今日のこの総会は正式に定められた議長のもとに開かれたのではないから、議決事項はすべて無効である。」と発言したことから場内は騒然となり、険悪な雰囲気がみなぎったが、「この場合は生徒総会の議決で、今日の議決を有効なものにしよう。」との動議が出され、可決されて、混乱の生徒総会に終止符が打たれたが、この時には高三の会員は、度重なる退場で開会当時のほぼ半数になっていた。

高校後期生徒会を顧みて

昭和三十六年度後期生徒会をふり返ってみると、生徒・委員・役員の三者の間に、つながりがほとんどなく、不活発な生徒会であった。

特に、評議委員会の低調さは、見るに耐えないもので、昨年十一月に選出された評議委員は、会議に出席さえせず、予算委員会などの重要な会議も、流会をくり返し、遂に一月中旬、評議委員会は解散されて、再び選挙を行って新しい評議委員会が発足したが、この評議委員会も、ほとんど活動せず、やった事といえば、食堂の状態について生徒の意見を聞いただけであった。

生徒会本部も、数回アンケートを生徒から集めたが、それを生徒会活動にどのような形で反映させたであろうか。会報を発行したり、アンケートを求めたりする事で、生徒会活動をしたような気になっていたのではないだろうか。

また生徒も、ただ役員や委員を選出するだけで、その後の生徒会の状態に、注意もしなかったのではないか。

このような有様では、「生徒のための生徒会」とか「内面的充実をはかる生徒会」などと唱えても無意味である。去る四月三十日の総会の最後に、田口前会長の高二の生徒に対する「生徒会は十分なことを、皆さんに出来なかったが、皆さんも生徒会に対して、どれだけの協力をして下さったのですか。」という言葉が、胸にこたえなかった人はいないだろう。生徒・委員・役員の三者が協力して、はじめて立派な生徒会、ひいては楽しい学校が出来るのであるから。

高校は革島君　中学は山木君

新生徒会長決定

▼洛星高等学校昭和三十七年度前期生徒会の生徒会長、副会長、書記長の選挙は五月二日の「朝のホーム・ルーム」の時間に行なわれた。立候補者は、生徒会長に革島貞彦君(二C)副会長には猪木武徳君(二C)書記長として井口紘介君(二A)の各一人ずつであった。

選挙の開票結果は同日午後一時頃、左のように発表された。

生徒会長　革島貞彦君　信任―二四六　不信任―一二八

副会長　猪木武徳君　信任―二七一　不信任―一〇三

書記長　井口紘介君　信任―二六二　不信任―一一〇

投票総数　四〇八票

有効投票総数　三七四票

無効投票総数　三四票

▼新高校生徒会の執行委員は下の如く決定された。

文化委員長　斎藤勲(二C)
風紀委員長　塚本常雄(二C)
体育委員長　藤本泰久(二B)
会計委員長　成瀬淳(二A)
体育部長　唐木寛(二C)
文化部長　吉田益美(二A)
印刷局長　黒沢勝(二C)

▼ⅢA山木堯水君、ⅢC大山多景石君の二名の候補のもとで、五月二日朝、例年のごとく中学生徒会長選挙が行われた。

前日の激しい論戦の為か二人の候補はとに角ホッとした様子であった。しかし二人の間には最後の力なき戦いが行われていた様な感じを受けた。

そういうフンイキの中で遂に発表。山木君一六九、大山君一一五

生徒のための生徒会

中学生徒会長　山木垂水

洛星中学校生徒会々長となり、あらためて任務の重要性を認識し、我生徒会の為にと、大いなるファイトを燃やしています。しかし、なにぶん初めての事なのでちょっと心配……。

さてこの会長と云う難職に携わり、僕がこれからやっていこうと考えている事について聞いていただきたいと思います。

今までの生徒会というものは、なんだか、生徒会役員だけの生徒会であった様に思われます。たとえば、生徒総会が開かれても、ある一部の人が意見を述べるだけでその他の人は隣りの人と議題とはまるで関係のないことを話したり、あいるは発言している人に対してただやじを飛ばしたりしているだけであったように思われます。

そして、大部分の生徒がこの様な態度を取るのも、一つには洛星生徒会というものをはっきり認識していないところから来るのではないでしょうか。つまり、もっと具体的に言いますと、生徒の中のどれだけの人が生徒会則や生徒会役員を知っているでしょうか。又総会に於て何を審議しているかということを考える人は殆どいないでしょう。これでは生徒会というものは生徒会全体の生徒会ではなく、それに直接携わっている役員だけの生徒会といわれても仕方がないでしょう。

ですから僕は生徒全体の皆さんに、生徒会を認識してもらう為に、会則や役員などを詳しくお知らせしたいと思っています。又一ヵ月に一度ぐらいは生徒会が考えている事や予定等をプリント其他で公示したいのです。そして、皆さんの意見も大いに取り入れていきます。文化面に於ても体育面、その他に於ても…。つまり洛星生徒会は僕達、君達のものなのです。

僕も最大限の力を発揮して楽しい生徒会を建設する為に頑張ります。ですから君達からも積極的な協力を願います。

生徒会の内面的充実

高校生徒会長　革島貞彦

ここに再び諸君の支持を得ました事をうれしく思っています。

今まで、中学で生徒会長になった者で、もう一度高校でも会長になろうと言った者が、ただの一人もいなかったという理由は何か。それは、会長というものが余りにもしんどいからだと思います。そして、それは委員、議員諸君が、あまりにもサボりすぎるからだと思います(勿論それだけではないでしょうが)。私は、このサボりに対しては、諸君の想像以上にきつくあたるつもりです。

所で、我々の基本方針。

本校も創立十周年をすぎ、又生徒会に於ても、一応の建設時代は終ったと思います。勿論、もう完成したと言っているのではありません。曰く「クラブの活発化」、曰く「他校との相互交流」、こうたと言うのです。私はもとよりそれらを軽視する訳ではありませんが、これからは、内面的充実期間だと思います。内面的充実とは何か。それは現在補導部がやっている仕事の一つ、例えば、つまらん事の様ですが、右側通行の厳守、校内の静謐の厳守、等です。又、自由販売制の復活なども考えています。

しかし、以上の事柄等を生徒自身の手でやる、という事のむつかしさも、当然考えない私ではありませんが、誰もやらなければ、いつまでたっても向上というものはあり得ない。とにかくやるまでだ、こう私は思うのです。

でありますから、どうしても、皆さんの御協力が必要となってくるのです。これらの目標が幼稚な様に見えれば見える程、その実行が必要となり、又協力が必要になるのです。但し、どういう事に協力すれば良いかは我々役員が指導していきたいと思います。

以上、色々のべましたが、決してこれらだけが全てではありません。文化祭等にも十分期待していただけると思います。

ただ、今までとは違って、こちらから、ガミガミ言うかもしれませんが、あくまで我々役員は、諸君の意見に立脚して行動するのだ、という事をお忘れにならないように。

どうか、よき御理解を賜わりますよう、お願いいたします。

公約は何であったろうか。

―中学後期生徒会―

前中学生徒会も「委員会での委員の態度の矯正・生徒と生徒会との親密化」との公約を以てその端を発し、五月一日の総会にその幕を閉じた。

ところでこの大任を終えた生徒会はどうであったか、紙面を通して顧みてみよう。

しかし残念な事に「これぞ」という印象がこの生徒会に対してないのが生徒会の印象なのである。ただし立派な映画鑑賞をさせてもらったが……。とにかくこの生徒会はつかみどころがない。何も我々に与え又は残してくれた物がない。

公約は実に立派であった。しかし公約とは行うものであって、言うものでないという事を、根底に置いてやってもらいたかったのである。(極く当り前の事であるが、当り前が守りにくいのが世の常であろう)一体この公約に対しての努力がどこに見られるのであろうか。それとも、公約よりも大切な事を思いつき、それに対しての努力がはらわれたのであろうか。委員会等に於ての委員の態度、あれがクラスの代表であろうか疑いたくなる。実際、ぐちをこぼさざるを得ないであろう。

我々には公約の実現を要求する権利があるし、生徒会にはそれに対する義務があるはずである。勿論、我々一人一人各々が、生徒会の構成分子の一つ一つである為、又その公約を認めた為、我々にもそれを遂行する義務があるだろう。しかし、まず第一に動かなくてはならぬのは生徒会であるのではなかろうか。当然これに対し生徒全体の協力の欠、これが原因となって、活動の不成功を収めたのかもしれない。それも一理ある。否、実際二理も三理もあるだろう。ところが、そこをうまく導くのが生徒会の見せどころというべきものではなかろうか。とに角、もう少し頑張ってもらいたかったものである。勿論、今となっては、あとの祭ではあろうが、新生徒会発足を機にして、この様な事を考えて見るのも、まんざら無駄な事でもなかろう。

▼平穏無事(?)な決算

決算の結果は総会の時のプリントの通りであった。故にその成り行きを見ておきたい。

四月中旬から決算報告書の提出を生徒会側から各クラブ部長に要求していた。ところが全然提出をしないし、活動不可という状態であった。そして、遂に委員会。しかし二、三回欠員多数の為流会。二十八日土曜日やっとの事で委員会が開かれる。質問も殆んどなく二、三時間で散会。そして総会へ持ち込む。質問の一つぐらい有りそうなものなのに、一つも質問はなく黙想をして総会は例年のごとく無事(?)終了。

もう少し活発であってもよかったのではなかろうか。

校務分担発表

学級担任

	A	B	C
中一	小川	本部	前田
中二	加地	白井	千葉
中三	岩田	吉村	正木
高一	則武	苫名	宮山
高二	吉田	木村	森住
高三	藤井	田中	緒方

学科主任

英語科　ナドウ　技術　奥田
数学科　宮山　宗教　村田
国語科　藤井　音楽　小笠原
社会科　小野　図工　白松
理科　本部　保体　小西

補導部

部長代理　ラトレー
副部長　小川(仁)・中田
補佐　マリー
部員　白井・岩田・小西
加地・苫名

教務部

部長　奥本
副部長　森住
部員　木村・宮山　小笠原
本部・則武・苫名・田中

図書部

部長兼館長　小野
司書　川島
部員　藤井・吉村・吉田
白松・小川(和)

食堂責任

整理　マリー・補導部員
経営　オーベン・会計部員

進学指導

森住・木村・宮山・田中

就職指導

藤井

衣笠

★早いもので、この洛星も創立以来十年を経て、去る四月二日には学校で、京都会館で盛大な記念祝典が挙行され、学校中が喜びに浸ったのは、皆の記憶に新しいことと思う。この十年の間に、我が洛星は「名も知られぬ洛西の一私立学校」から、京都に数多くある私立学校の「大御所?」の同志社、立命館などの、百年近い伝統を有するいわゆる名門校と比較しても、決して見劣りしないほどにまで発展し、今日のこの状態を十年前に誰が予想できたであろうか。

★この間に、大学合格者も年々増加し、四年前、一期生は七名しか京大に入学出来なかったのが、今春は大量五十六名が入学し、出身高校別入学者数でも、灘、紫野をわずかながら凌ぎ全国一となったが、またその半面世間の本校に対する誤解も生じてきた。つまり、洛星とは、生徒の人格面、精神面での指導はほとんど行なわず、クラブ活動やその他の課外活動も、あまり積極的に行なわれていなくて、六年制の大学受験予備校と大差ないと見る向きである。

★このような誤解は、以前からあったが、単なる「うわさ」だと思っていたところ、驚いたことは、ある一流の全国的規模を有する新聞が、三月下旬の夕刊の編集欄でも呼ぶべきところに、前記のような意味の記事を載せた。

★無論、このことは、誤報をした新聞社に責任があるのだが、世間にこのような感じを与えた洛星自体にも責任がないではない。確かに、ここ二、三年、本校はクラブ活動、宗教研究に力を注ぐようになってきたし、生徒もこのような課外活動に積極的に参加するようになってはきたが、まだ全般的な盛り上がり感じられない。今年度こそは生徒全員が、課外活動に自主的に参加し、この洛星を潤いのある楽しい学校にしようではないか。

★確かに洛星は、今日まで十年間に大きな発展をとげた。しかしその事だけで満足したりしてはならない。一日一日努力を重ね、今日より十年後の二十周年の時、あるいは三十周年の時、この学校が今日より良くなるのも悪くなるのも今日の我々に負うところが多いのであるから。

洛星新聞

洛星新聞編集局
京都市北区小松原南町
TEL(44)2334

募局
集員

堂々！京大に五十六名

見事な入試結果

今年度の大学入試において本校の卒業生は、昨年以上にすばらしい成績をあげた。我々後輩の責任が、いよいよ重大になったわけである。先輩にひきつづいて我々は、躍進しなければならない。

今ここに我々の先輩のかがやかしい結果を発表することにしょう。まず現役から。国立大学では、京都大学に昨年の十八名をはるかに越して三十七名、東京大学に二名だったのが四名、神戸大学に一名、北海道大学に一名、名古屋工大に昨年の〇名に対し三名、その他の大学にもめでたく合格している。

次に私立大学では同志社大学がトップで昨年の十五名とかわらず、慶応大学に〇名だったのが四名、早稲田大学に昨年の二名に対し三名、関西学院大学に三名、その他多くの大学にも見事合格した。

又浪人組でも国立大学では京都大学がトップで十九名、大阪大学に二名、北海道大学に二名、という好結果。私立では同志社大学がやはりトップで昨年より十名多く二十九名、立名館大学に七名と言うこれもすばらしい成績をあげた。

ここで我々の先輩のもっとも多くが志望し我々後輩の多くが望んでいる京都大学の各学部について述べることにしょう。

まず現役では工学部に昨年の七名に対し十二名、農学部には二名だったのが四名ふえて六名、理学部は一名に対し三名、経済学部は二名に対し五名、法学部は昨年と変らず五名、薬学部〇名だったのが一名、医学部に三名、教育学部二名。

次に浪人では法学部二名、経済学部三名、教育学部〇名、理学部〇名、医学部一名、薬学部二名、農学部三名、工学部八名という結果になっている。文学部は現役浪人共就職率が悪いせいか誰も入っていない。

上の表を見てみてもはるかに浪人より現役の方が多い。浪人をすれば入いれると思っていてはダメである。その為に一日一日を、がんばってすごさねばならない。

さてこの好結果の根本原因ともいうべきものは、いったいどこにあったのだろうか。前高校三年生をとのような方針に基づいて指導されたかを、木村先生にうかがってみた。

授業にあくまで重点を置いた事である。だから今年の卒業生は、ほとんど九十九%までが、最後までまじめに授業を受けた事を、諸君も知っているだろう。だから学校の勉強を毎日こつこつとやる者が、栄光を獲得する事が出来ると言えよう。

それ故、世間は合格者が多いとよく進学学校だとか言うが、本校は絶対にそうではない。

この学校は人格形成があくまで主である。しかし進学したいという者に対しては、その望みをかなえるだけの義務が、学校としてある訳なのだ。何人入れて、何位になろう等とかいう様な考えは、全然持っていない。

この様に学校の授業を一生懸命とし、この様に言っておられた。

この様に学校の授業を一生懸命とする事が、我々の最良のコースではないだろうか。

①京都大学各学部別合格者

学部名	現役	浪人	計
文学部	0	0	0
法学部	5	2	7
経済学部	5	3	8
教育学部	2	0	2
理学部	3	0	3
医学部	3	1	4
薬学部	1	2	3
農学部	6	3	9
工学部	12	8	20
計	37	19	56

②その他の国・公立大学

大学名	現役	浪人	計
東京大	4	0	4
神戸大	1	1	2
北海道大	1	1	2
名工大	3	0	3
東医歯大	1	0	1
京府医大	1	1	2
京府大	3	5	8
大阪大	0	2	2
金沢大	0	1	1
京工繊大	0	3	3
京学大	0	2	2
京美大	0	1	1
大阪市大	0	2	2
横浜市大	0	1	1
鳥取大	0	1	1
大阪外大	0	4	4
水産講習所	0	1	1
計	14	26	40

③ 私立大学

大学名	現役	浪人	計
同志社大	15	29	44
慶応大	4	4	8
早稲田大	3	0	3
関学大	3	4	7
法政大	2	2	4
立命大	2	7	9
甲南大	1	1	2
関大	1	1	2
大歯大	1	0	1
計	32	48	80

④ 総計

	現役	浪人	計
国・公立大学	51	45	96
私立大学	32	48	80
	83	93	176

主張　塵積りて山となる

最近の全生徒の校内生活は、少したるんでいるように感じられる。何となくさわがしく、何となくまとまりがなく、何となくほこりっぽく感じるのである。これは校内生活を営む大部分の人が、いくらかなりとも感じているのではなかろうか。校内生活における静粛、美化整頓、時間厳守、礼儀、その他数多くの面で、これを感じるのである。ここでは、美化整頓を例にとって、少し述べてみよう。まず洛星中高等学校生徒心得㉝校内生活の項目の⑥、⑪、それに⑧掃除の項目の①～⑩、⑨施設、器具の項目の①、㉝、その他数多くの項目が、ほとんど無視されている状態なのである。以上の事項は、非常にささいなことかもしれない。しかし、今述べたような事項をはじめとして、他のあらゆるささいな事をも全校の生徒全員が完全に守るなら、現在よりどれほど環境の向上を見る事が出来るだろうか。疑う余地もなく、明らかに、大変な向上である。このように、ほんのささいな事を、生徒一人一人が、完全に守ることによって、我々のこれから以後の校内生活が、我々の家庭と同じように、気持よく、かつ楽しくなるのである。「塵積りて山となる」このことわざが、この場合にもあてはまるのである。このことわざは、誰もが知っているはずである。そして、このことわざのもつ意味を述べよと言われれば、だれもが答えられるはずである。にもかかわらず、ほとんどの生徒は、これを実行しょうとしていないのである。又、これと逆の場合にも、このことわざが、あてはまるのである。誰しもが自分だけが実行しなくてもという考えでいれば、全生徒約八百人の総和となって、校舎が一層汚れるのである。

現在の洛星は、他校とくらべて確かに、優っている点が多い。だからといって、本当に満足できる状態だろうか。決して満足できる状態ではないのである。いや、満足してはならないのである。それは、先に述べたことわざの意味を知っていながら、このささいな事を守ることが出来ていないからである。我々は、めぐまれたりっぱな校舎を持っていながら、この美化整頓を守らずに、塵を積もらせているのである。これはほんとうに宝の持ちぐされである。

諸君、このささいな、いや、この重大な、無視し得ない数多くの事項を、着実に実行し、我が洛星に、表面のみの美ではなくして、底の底から、根本的な美を描こうではないか。

最後に、「塵積りて山となる」。

すばらしかった十周年記念祭

四月二日予定通り、八時半頃から本学園講堂において祝賀ミサが始められた。一日前に入学式をあげたばかりの新入生は、始めてのミサに少々おどろいている様であった。約一時間にわたって行なわれたミサは九時半頃終了した。十時からはミサにひきつづき洛星創立十周年記念式典が行なわれた。が、案外父兄の出席数も多くそのたちの顔もすべて喜びにあふれていた。ただ少し残念な事に在校生が高三を除いてほとんど出席できなかった事である。出来なかった人の為にもその時の大体の模様をお知らせしょう。

午前十時開式・国歌斉唱・理事長挨拶・来賓挨拶・生徒代表挨拶・父兄代表挨拶・同窓生代表挨拶・校歌斉唱・閉式・永続勤務者表彰（これは前田先生・川島先生・小西先生がお受けになった）工事関係者感謝状贈呈・祝宴（来賓の方々食堂にて）

この後父兄の方々及び来賓の方々はバスで京都会館へ。

二時から祝賀コンサートが京都会館第一ホールではなばなしく開かれた。オーケストラ・グリークラブ・それに高二音楽選択者が加わり、コンサートは大成功であった。出席者は父兄ばかりでなく、それ以外のお客さんも所々に見え、大部分の席がつめられていた。これはまことによろこぶべきことであった。その上洛星生徒の態度も非常によかったといってもさしつかえないだろう。

この様にして創立十周年記念祭も何事もなく終ったわけであるが、今から考えて見るとだった十年の間によくもこれだけ発達したものである。洛星の創立から今に至るまでの十年間を今ふりかえって見よう。

昭和二十六年十二月　○学校法人ヴィアトール学園設立認可

同　三月　○カリエ神父理長に就任

同　三月　○中学校舎落成

昭和二十七年二月　○洛星中学校設置認可

同　三月　○ホワイト神父洛星中学校長に就任

昭和二十七年四月　○中学校第一回入学式

昭和二十九年九月　○洛星高等学校設置認可

同　九月　○ドローレット神父理事長に就任

昭和三十年三月　○中学校第一回卒業式

同　四月　○高等学校舎落成

同　四月　○高等学校第一回入学式

昭和三十一年四月　○ナドウ神父洛星中、高等学校長に就任

昭和三十二年九月　○講堂兼体育館落成

昭和三十三年三月　○高等学校第一回卒業式

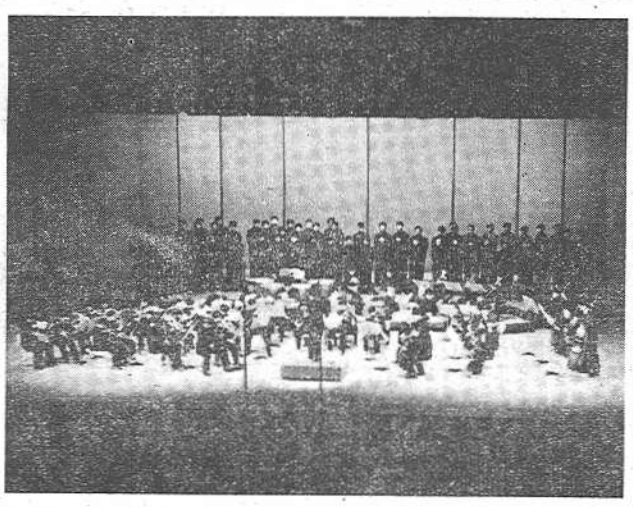
同　四月　○小野副校長就任

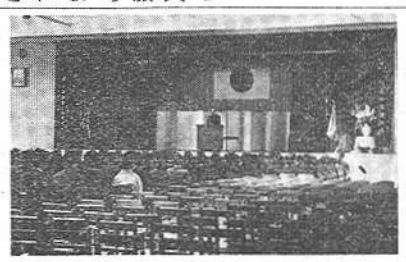
昭和三十五年十二月　○ケルブ館落成

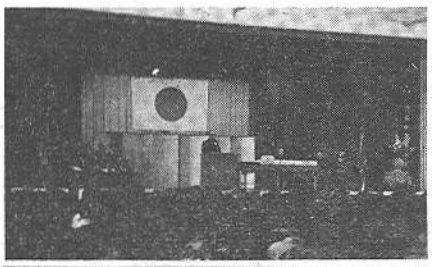
昭和三十六年七月　○レルー神父理事長に就任

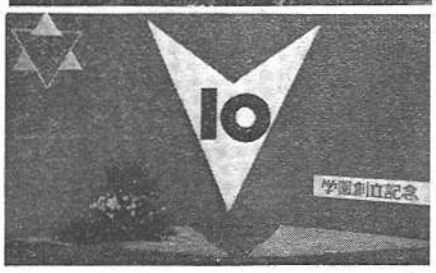
同　十二月　○第一洛星会館落成（学園創立十周年記念）

昭和三十七年四月　○ヴィアトール学園創立十周年記念式典挙行









これらは洛星会館の完成を記念して父兄の好意によって寄付されたものなのである。その由来は知

第十一期生　待望の入学式

暦ではもう春であると言うのにまだまだ寒い四月一日、新入生にとっても、又弟としてむかえる我々にとってもたのしみとしていた入学式が本校講堂にて行なわれた。

中学校の方は午後二時から喜びのうちに始められた。父兄の方々にとっても又新入生にとっても今までに体験した事の無い喜びであったに違いない。彼等は始まるだいぶ前から本校門の前でお母さん又はお父さんによりそって？我々の学園をながめていた。彼等の心は雲の様に空中をふわりふわりとうついていただろう。まだ校章もつけてない頭の半分以上隠す様な大きな帽子をかぶりダブダブの制服を着た新入生は目をみひらいてちょこんと椅子にすわってかしこまって校長先生の式辞を聞いていた。表情を見てみてもみんな狭き門を入って来た生徒とはまったく別人の様にあどけない顔をしていた。これも二、三年もすればいろいろな苦労を味わって？我々の様なにるのかと思うといやはや残念である。式は毎年の如く開式の辞・新入生氏名発表・学校長訓辞・補導部長訓辞・宣誓・校章授与・教員紹介・閉式の辞の順序で進められ、その後A・B・Cに別れて「小川先生、本部先生、前田先

トピックス

▼去る五月二十二日試験終了日より、食堂に新しいメニューが加わった。みんなも既に知っている事と思うが、多少の変更もあり、ここであらためて記載する事にしょう。

五十円のトンカツ。二十円のライス。それに五円のみそ汁。数日おくれて、アイスクリーム、ジュース。ただ少しアイスクリームを教室で食べるのは、どうかと思う。各自反省してほしいものだ。

▼修道院に出来た宗教研究室は、四月二日に竣工式を済まして、諸君の利用を待っているが、この所殆んど利用者がなく、折角の立派な設備も無用の長物となりかけている次第である。手軽な話し合いの場としても充分に利用して欲しいものだ。

次にあげるのがその主なる規則である。

一、常に清潔に心がけよう。

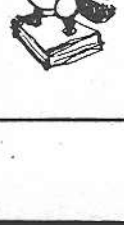
二、破損のない様に注意しょう。

三、我が家の様に楽しい雰囲気を作ろう。

▼今年度から授業料が学期払いになったが、これについての副校長の説明によると、まず第一に事務の手数を少なくする、第二には、千円二千円というより何万円かを一度に持つと、生徒の方も緊張するから事故が起る可能性が少なくなるからだという事である。

▼諸君らほとんどが見ただろう。視聴覚教室に置いてある素晴しいステレオやテレビを。きっと見た時、聴きたいなあ見たいなあという心を諸君は起したに違いない。

▼ケルブ館落成式の日、ヴィアトール学園創立十周年記念式典挙行の日、レルー神父理事長に就任の日、第一洛星会館落成の日、ヴィアトール学園創立十周年記念式典挙行の日、これらの日は、この様にわが洛星はわずか十年の間に大きく発展してきた。これを我々の手によってよりよくまたより偉大にしょうではないか。



▼今年度の入学式の日、校長先生の式辞の中に、「小川先生、本部先生、前田先生、川島先生、小西先生、ケルブ館落成式典挙行の日、レルー神父理事長に就任の日、第一洛星会館落成の日、ヴィアトール学園創立十周年記念式典挙行の日、これらの日は、この様にわが洛星はわずか十年の間に大きく発展してきた。これを我々の手によってよりよくまたより偉大にしょうではないか。

▼これはめずらしく校外トピックス。去る四月二十四日、皇后陛下が本学園の近くの瑞安寺においでになった時のことである。本学園の某君（天皇崇拝者である？）、陛下がおめみえになったとたん突然あたりの静けさをやぶって大声でさけんだ。「バンザーイ。バンザーイ。バンザーイ」と三唱。それもたった一人で。その時の彼の心はいかなるものだったか。しばらくしてからまわりの人々が彼をジロリジロリと穴のあくほど？見はじめた。さぞはずかしくもあり又ほこり高くもあった。

▼このたび村田神父がしばらくの間第二の故郷であるカナダに渡航される事になった。詳細は次号に載せる事にする。

▼次はめでたいめでたい話。小川先生結婚される！といっても英語科の小川先生です。去る四月二十九日、天皇誕生日（これはあまり関係ない）に衣笠教会でめでたく式をあげられた。式は午時十五分から。先生の奥さんになった方の名前は……大滝三智子さん（旧姓）新婚旅行は志賀高原（すいぶん涼しい所です）きっとずばらしい旅行をなされた事でしょう。

スポーツ

大活躍のハンドボール部

第十六回京都高校春季ハンドボール選手権大会

去る4月29日・5月3・6日に第十六回京都高校春季ハンドボール選手権大会が洛星のグラウンドで行われ、桃山、大谷、平安、西京を連破し優勝を決定した。なおこの大会は近畿大会予選をも兼ねていたので、当洛星ハンドボール部は近畿大会への出場権を獲得した。ではその結果をここに掲げることにしよう。

第十六回京都高校春季ハンドボールリーグ戦兼近畿大会予選

▼男子Bブロック

洛星16（7−4、9−3）7桃山
洛星13（6−2、7−3）5大谷
洛星12（5−3、7−3）6平安

▼決勝

洛星11（5−4、6−4）8西京

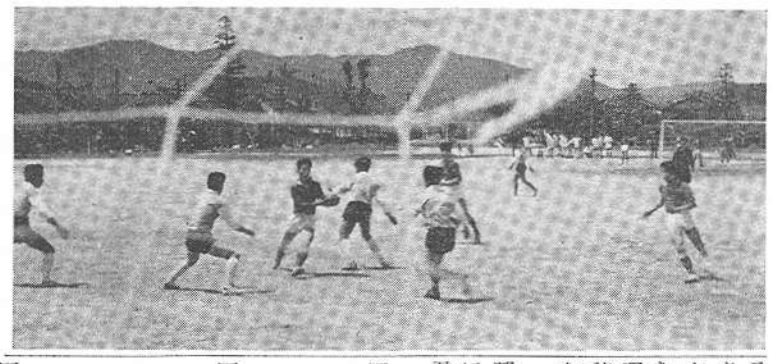
【総評】

全体の動きをよくみてとった洛星の順当な勝利と云えよう。春早い着実なポイントを重ねることによって自己のペースで試合の主導権を握った。

FWの多角的な攻撃とパスワークがよく、個人的にもフェイントの突進力がものをいい見こたえがあった。BKも人とボールの体形をよくみきわめる余裕をもち、攻撃の原動力をつくった。

GKも試合を追うごとにボールに対する感が出来、しり上り、好調を示した。優勝のかげに先輩の応援があった事も選手の意を強くしたに違いないし、その気持にこたえた一戦であったろう。

以上が試合の結果ならびに戦評である。ハンドボール部の活躍ぶりはまことにめざましい。また今後のより一層の活躍を期待しょうではないか。しかしハンドボール部も現在部員の不足がはなはだしい。諸君の積極的な加入と活動を望む。



次にハンドボール部と陸上競技部のこれからの日程を掲げることにしよう。選手の健闘及び生徒諸君の観戦と声援を望む。

▼ハンドボール

▼中学の部

5月12・13日（於下鴨中）第十六回市中学校春季大会

7月第12回市中学夏季選手権大会

▼高校の部

5月12・13日（於京都府立大学）近畿ハンドボール大会

5月26・27日第十五回京都府高等学校総合体育大会ハンドボール之部

▼陸上競技

▼中学の部

5月20日（於西京極）第十六回京都市中学校春季陸上競技大会

7月22日（於西京極）第三回夏季選手権大会

8月5日（於西京極）第12回全日本中学放送陸上

▼高校の部

6月1・2・3日（於西京極）京都府高校陸上競技対抗選手権大会（京都I・H）

7月7・8日京都府高校総合体育大会陸上之部

スケート部

3月25日第5回京都府高等学校スピードスケート選手権大会（於京都アリーナ）

リレー　第二位　洛星（花谷・林・小島・一瀬）

総合　第三位　洛星

野球部

このクラブはなかなか人気もあり部員も他のクラブにくらべてやや多い、またいままでは野球部といえば弱いのが相場であったが、昨年には全国優勝の経験をもつ名門平安高を私学の野球大会で堂々と破の（ジャイケンで勝ったという説が有力）初めて二位に入賞した。また三連勝という輝かしい野球部初まって以来の前代未聞の大事件があった。（信じない人もいたがこれは真実である）今シーズンの第一試合は去る4月28日の対洛北戦であった。HI生を中心として洛星はよく健闘したが予想どおり敗れた。これに先だって試合の出場権をかけて？HII生（部外者）たちと試合をしたが猛練習のかいがあったのかなかったのか見事に大勝してやっと面目をほどこした次第である。又部長の北村章一君（HIIA）を中心としてなごやかにまとまっていて大変ゆかいなクラブである。顧問の中村先生の好指導により実力が段々向上している。諸君も加入すればきっと上手になり活発になるであろう。

4月28日（於洛星グラウンド）洛北高3−2洛星高

陸上部

入部は今だ！

顧問中田先生

岩田先生迄

新任教師紹介

質問

①生年月日。身長、体重。出身地出身校。
②当学園の感じは？欠点は？
③酒、ビールはどの程度？タバコは？種類は？
④学生時代のガールフレンドは？
⑤趣味、特技。
⑥御自分の顔は？
⑦御自分の「くせ」は？
⑧現住所。

専任

小澤満先生　担当　社会

①昭和七年二月二四日生。一六〇cm、五〇kgぐらい。滋賀県出身、北大卒。
②校舎のりっぱなことと、校内の静けさに驚いた。生徒全体にもっと野性味がほしい。
③酒三合、ビール三本。タバコは一日六本、しんせい族。
④ごく少数あり。
⑤探偵小説を読むこと。
⑥あればよい。
⑦鼻を……。
⑧京都市東山区山科御陵大津畑町。

白松茂郎先生　担当　図工

①昭和七年五月二九日生。一六〇cm、六〇kg、山口県出身。京都美大卒。
②非常に整然とした感じである。欠点は、まだわからない。
③酒は五合まで、ビールなら三本。タバコは吸わない。
④たんとおった。
⑤刃物をとぐこと。
⑥こきます。
⑦そのうちわかる。
⑧京都市右京区樫原上池田町一の二。

講師

貝原久先生　担当　理科

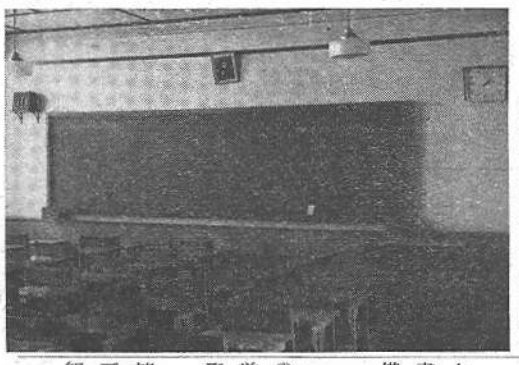
①昭和一三年一月六日生。約一六三cm、五六〜六〇kg。京都出身、各地を転々。京都大学卒。
②皆秀才に見えるし、先生方は良い方ばかりである。欠点は今のところ見当らない。
③五合位なら平気。ビールなら半ダースその他強い洋酒を好む。但し最近は控えている。
④学生時代の定義により……。大学時代はとくになし。
⑤以前はラジオをばらしたり、碁を打ったりした。現在は、哲学や経済の本を読む程度。
⑥御覧の通り。落語家になった方が良かったと云われることがある。
⑦「無くて七癖」と云うからいろいろあり。自分で気付いている点は、オッチョコチョイで猫背でせかせか歩くことがある。
⑧京都市左京区吉田二本松町五九番地、土坂佐一郎方。

全一東先生　担当　理科

①昭和一一年二月九日生。一七一cm、五四kg。大阪出身。京都大学大学院理学研究科在。
②良くも悪くもなし。只、清潔な感じはする。
③アルコール類は、どれ程の強さか自分でも解らない。何故なら限界迄飲んだことがないから。タバコは吸わない。
④ガールフレンドは遂に出来ず。片おもいの恋愛はしたことあり。
⑤趣味瞑想。特技なし。
⑥自分でこしらえている途中だから不満点も多々あり。
⑦自分のクセは自分で知らない。見つけて欲しい。
⑧京都市左京区北白川鳥町二番地植実方。

尾里健二郎先生　担当　理科

①昭和一三年七月一七日生。一六二cm、四八kg。熊本県人吉市出身。京大理学部動物学科出身。
②すごく良く勉強する。あとはまだよくつきあって見てからでないとわからない。
③酒一合。ビール一本。
④友達が一人。
⑤時々映画を見る。人と話すこと。
⑥可愛いと言われるのをひどく苦にしている。
⑦察しが悪いこと。計画的でないこと。よく忘れること。



先の長い教員図書

感じのよい選択教室

今まで高一Aの隣にあった選択教室が、洛星会館の完成で中学校舎一階の前中学生徒会室へ移った。

又、教員図書が前図工室に出来上がるが、現在の所、仮の教員図書を第一応接室に設けて、本の整備が行なわれている。

教員図書に必要な本の総額は、一千万円近いそうであるが、今年の予算は、教員図書に約三十万円、学校図書には約四十万円が、それぞれ割当てられるそうである。図書がこのように少ないのは本校の理科実験設備が不足であるのでこの方に重点が置かれて予算が組まれたからだそうである。

（写真は新選択教室）

退職教師

専任

青田裕昭先生　担当　図工
湯川俊一郎先生　担当　国語

講師

瀬野悍二先生　担当　理科
浜満先生　担当　理科
服部敏彦先生　担当　数学
山田俊雄先生　担当　数学
工藤敬一先生　担当　社会

佐藤昌史先生　担当　理科

①昭和九年一二月一三日生。一七二cm、五二kg。東京及び横浜で育つ。京大卒。
②良い意味でお坊ちゃんの集団という感じを受けた。
③コップ二杯のビールで酔う。タバコはやらない。
④想像にまかせる。
⑤古典音楽を聴くこと。特にモォーツアルトには傾倒した。レコードになっている曲なら、曲名、調号、ケッヘル番号を当てるという特技あり。その他ウイン古典派やバロック音楽を愛好している。
⑥いやなつらだが、とりかえるわけにいかないので、我慢している。
⑦物事がうまく行かない時「チキショー」と怒鳴る癖あり。
⑧京都市左京区北白川瀬の内町四番地、渡辺方。

串部宏之先生　担当　数学

①昭和一五年二月二六日生。一七二cm、五五kg。愛媛県今治市出身。京大卒。
②「勉強」に関する限り非常に良い環境と雰囲気にあると思う。まだよく判らないが、廊下が滑りすぎて歩きにくいのが欠点。女生徒の居ないのが、諸君にとって学園の一大欠点ではないだろうか。
③酒少量。タバコは「スリーA」。お金がなくなると「新生」。
④一人しか居ません。
⑤趣味は山歩きと音楽。
⑥非常に安っぽい顔でと思うが、取り替えが出来ないから……。
⑦皆さんで見つけて下さい。
⑧京都市左京区吉田下阿達町一〇番地、山本方。

望月清先生　担当　数学

①昭和一四年三月五日生。一七四cm、五八kg。群馬県前橋市出身。京都大学理学部卒。
②田舎育ちのためかもしれないが、中学生にしては少々行儀が良過ぎる様に思う。
③タバコは「スリーA。」お酒の量はまだ計ったことがない。
④質問の真意がわからないので……。
⑤万々に旅行して「カツドン」の味を比較すること。特技、ひまな時はいつでも寝られること。
⑥自分では二枚目のつもりでいるが他人はそうは見てくれないのが残念。
⑦カライものを食べるとクシャミをする。癖というより習慣である。
⑧京都市左京区田中里の内町二〇番地、青山末太郎方。

三島宏司先生　担当　数学

昨年の一学期半ばから講師として本学園で数学を教えておられたが、今年度から専任教師として高一幾何と高二の代数を受け持たれることになった。

尚、本年講師として中一の社会倫理を教えられることになった藤堂神父様と、高二国語甲を教えられることになった門川先生にはお聞きすることが出来ませんでしたことをお記びします。

人員不足の新聞局

現在洛星新聞の最大の悩みは、人員の不足である。新聞局にいくら立派な設備があっても、新聞局員の不足は、最もきびしい痛手であり、現在の新聞局員だけで新聞を作っていくことは、非常に負担である。尚、参考までに今の新聞局員は、HIIが六名、MIII五名、MIIが四名のありさま。ここで少し考えてみよう。もつHIIの生徒は二学期中で退局する。そうすると、もう次はMIIIが主動力となってどうしてもやらなければならないのである。しかし、中学生だけでは種々の記事を集めたり書いたりする上に大変困難な点が出てくるのである。例えば、高校生徒会の活動状況、高校生間での種々の行事等、高校内に関する記事を取ることの困難は明らかである。ところで、この洛星新聞は中学生・高校生共の新聞であり、中学生のみの新聞ではないのであるから、この困難を取り除く必要がある。現HI諸君、新聞局を再認識していただきたい。HI諸君は洛星新聞に全然無関心というわけではないだろう。きっと新聞が配られたら、特に目につく記事だけでも読むだろう。新聞局は、局員が必要なのである。

GLEE CLUB

歌え若人

苫名先生・井口（HIIA）まで

声

もっと大声を

近頃、洛星新聞紙上に「声」の欄がないことを、諸君はすでに御気付のことだろう。最近の新聞局投稿箱はいつ見ても空っぽである。

誰もが自分は自分なりの主張といったものを持っているはずなのであり、ただ単にぶつぶつと文句をいうことのみが「声」なのではないのであるから、自分の持っている本当の意味での建設的な意見こそを「声」として発表すべきではなかろうか。

他人に対して発表することの出来ない意見、それは本当の意味での意見ではない。自分の持っている意見を発表することによって、何人かの人にとって、いくらかなりとも得るものがあればそれでその意見は生かされたのではなかろうか。

諸君、もっとどしどし自分の意見（「声」）を発表していただきたい。

〝諸君、もっと大声を！〟

アラール神父さんお元気で
―送別会なごやかに―

京都駅にて送別の生徒にとりまかれるアラール神父

アラール神父(補導部長)は、四月二十三日発の「第二つばめ」で上京、翌二十四日午後空路カナダに向われ、現在お元気といっしょにおられる。

二十三日四時過ぎには、二百名以上もの生徒が、広い京都駅のホームに集まっていた。高Ⅲ生を除く各学年の生徒と記念撮影をされる神父は終始にこにこしておられた。いよいよ乗車されるとどこからともなく「アラール神父さまバンザーイ」と、大歓声がこだました。神父は心持ち悲しそう。

これに先立ち、当日朝全校の神父送別会があり、四月十五日には既述の片岡君(ⅡⅢB)発起の送別会が宗研主催で開かれていた。当日会場の講堂には百名以上の生徒集まり、三時間にわたり和かなパーティが続いたがその間視聴覚教室においては神父御自身撮影のカナダ、ヨーロッパの美しいスライドをお写しになり、講堂では当分聞くことのできないハモンドオルガンがその重々しい音色を奏でていた。その上に、オーケストラ部有志の弦楽四重奏、全員の合唱など、雰囲気をふさわしいものとしていた。

神父は七年前の一九五五年来日以来一度も帰国されずに学園のために尽して来られており、此度帰国されるのは、公用及び神父御自身の健康回復のためである。このため神父の来日は、遅れることになるかもしれないが、早くよくなられて再びこの学園にやって来られることをお祈りしていよう。

なお神父の御住所は
Rev. Father Francois Aliard c. s. v. Carlenton-sur-mer, (Bonaventure) Que, Canada

Parents seem to be nomad, so……
―ブラザープーレン半生記(上)―

三十七年前、私はアメリカ、メーン州リューストンの近くの双子都市の一つオバーンメーンに、長男として生まれた。そしてロメオという名をもらい受け、大変誇らしく思っていた、それにはロマンチックな物語があるのだが。

生まれたての時分から両親は一緒にとどまることがなかったので、私の全生涯に大きな打撃をうけているように思う。この世での最初の三年間両親とともにオバーン市にいたが、その間のことは、ほとんど覚えていない。ただ、親たちの愛玩物のようなもので、あまやかされすぎていたことは確かだ。

両親はどこかほかの場所で幸運を捜そうとしていたのか、スタルジァを懐したのか、二人ともカナダで生まれたが四年間自分たちの両親にあっていなかったので、一度行って、特に大変誇りにしている息子をみせようと考えた。

それから父は職をみつけ、はじめは標でそれから測量士であった。私はあっちこっちで五、六才上の叔父たちと遊んだりしたことを覚えている。又、その時分、子供を幼稚園に通わせるような習慣はなかったし、そんなことは知られてもいなかったが、母の口から直接、他の子供と同じようにお祈りや、他の基礎的なことをおしえてもらった。

次にレイク・メガンティックという、名の示すごとく、美しい湖の端の小さな町に住みついた。町というには小さすぎたが、工業が盛んであった。父は又、そこで職を捜した。私の生まれて以来、二度目の巣を彼等が見付けたとでも言おうか。そこで一生の種ともいうべき教育を受けることになった。ここが両親とともに最も長く過した所だった。メインストリートに面した二階屋に住み、私は一坪足らずのバルコニーでしか遊べず、長い時間そこで想像の世界に入って過した。街路といえば、馬や車が危険でゆるされなかったし、湖の岸では整備された運動場や児童公園のないのは当り前と思われていた。水泳は湖にそんなに近くなかったので一人では行けず、それに母がゆるすはずはなかった。そんなわけでうまくない。だが、日曜の午後には父といっしょに学校のグランドで野球の試合をみたり五セントもらってアイスクリームコーンや軽い飲み物を買ったりして楽しんだ。その時の野球選手の名を幾人が覚えている。私にとってはスターだったからだ。又、両親とともに、教会のミサに列席し母の敬虔な姿を見、お祈りを覚えたこともある。それに同じ町に住んでいるいとこ達の所へもよくいって遊んだ。その町にはたった一つだけ映画館があったが子供は入場禁止だった。しかしそれも不思議なことではなかった。

六才ぐらいの時、母につき添われて、そう遠くない小学校にはいったが、何年も一人ぼっちだったので、恥し屋で他人とは決して交らなかった。先生はブラザーで私はクラスのトップでもビリでもなかった。夜毛しいオイルランプのもとで宿題をかたづけたものだ。

長い間、じっとしていたので町の中でも他の区域に移ろうということになったが、私にとっては、別の学校の壁になじめということであって、むつかしいことだった。だがそれも少しの間のことで、まもなく父は製造所を離れなければならず、職はもうなかった。

それから合衆国境の前述の小さな村にもどったが、そこの学校でも慣れるという問題が依然つきまといい、その上、先生がシスターであったことはもっと悪かった。

数カ月母の両親のもとで過し、同じように父の両親のところで過した。特に後者は農家で、家畜や、特にその臭になれていなかったので新しい出来事が楽しくなかった。文句を言うわけにはいかなかったが、それでもすぐに農場の面白いことを覚えてしまった。馬を野原や山に乗り回したり、犬と遊んだり、いとこたちともちろん喧嘩もよくした。一人でいることに慣れていたからだが、又私にはよいことだったのだ。それは私自身の性格を変え、エゴティズムをなくすという結果になった。私達は冬中何時間も干草納屋で遊び動物の世話をしたりした。そこで特に楽しかった事が三つあった。

それからカナダに帰ったが、私の生涯で最も重大な事件が起った。それは、ローマカトリック教会の聖職者になるための試験を受けることであった。それは、ローマ教会の聖職者になるための試験を受けることであった。それは、ローマ教会の聖職者になるための試験を受けることであった。それは、ローマ